

\$name

THE VEDANTA KYOKAI

日本ヴェーダ学会からのニュース、更新情報その他

2003年6月

Volume 1 Number 3

*かく語りき

「ひとり一人の魂が神聖さを秘めている。目標は内外の本能的な性質を制御し、自らの内に神聖さを実現することにある。

仕事、礼拝、精神的な制御、哲学によってこれを成し遂げなさい。このうちのひとつ、ふたつ、あるいはすべてを実践することで自由になりなさい。

これが信仰のすべてだ。教義、教理、儀式、書物、寺院などの形式は二義的な詳細に過ぎない」(スワミー・ヴィヴェーカーナンダ)

「誠に神は純粋にして、純粋なる者を愛される。清浄にして、清浄なる者を愛される。慈悲深くして、慈悲深き者を愛される。また寛大にして、寛大なる者を愛される」
(預言者モハメッド)

*今月の予定

『スワミー・ヴィヴェーカーナンダ第141回生誕祝賀会』

日程:6月22日(日曜日)午後2時~5時30分

会場:豊島公会堂(東京都豊島区東池袋1-19-1)

パネル・ディスカッション:

『日常生活の不安に打ち克つ力(スワミー・ヴィヴェーカーナンダの教え)』

パネリスト:シリル・ヴェリヤト教授(上智大学)

ケティ・R・松井教授(清泉女子大学)

豊福健一郎氏

進行役:奈良毅教授

司会:平野久仁子氏

『不滅の言葉』特別号のリリースとスピーチ:インド大使アフターブ・セット閣下

プログラムには短い瞑想ガイド、日本人とインド人信者による賛歌、そしてスワミー・ヴィヴェーカーナンダのビデオ上映があります。

入場は無料です。

ご家族友人お誘い合わせのうえ御出席下さいますよう、心よりお待ちしております。
詳細は日本ヴェーダータ協会までお問い合わせ下さい。(電話:046-873-0428)

*大阪での講話:アユールヴェーダ・セミナー

5月5日、第2回アユールヴェーダ国際セミナーが大阪の会議センターのインターナショナル・ハウスで開かれ、スワミー・メダサーナンダに講話の依頼がありました。

午前の部でスワミーは、身体、心、魂の関係についての洞察を述べられ、約150人が聞き入りました。

講話の前後にはヴェーダの平和の祈りが唱えられました。予め配られた日本語訳と表音が記されたプリントを手に、参加者の方々も熱心にスワミーの声明に続きました。

*5月の月例会:仏陀生誕祭

5月18日(日曜日)日本ヴェーダータ協会は、逗子センターでゴータマ・ブッダの降誕とメッセージを祝っての月例会を催しました。

今月のプログラムでは、駒沢大学の奈良康明学長から『ゴータマ・ブッダとシュリー・ラーマクリシュナ』の演題で特別講演を頂きました。奈良先生はカルカッタ大学で仏教とインド学を研究されていた学生時代から、幾度もラーマクリシュナ・ミッションを訪れておられます。後には住職とされますが、シュリー・ラーマクリシュナの伝記を書いた最初の日本人でもあられます。

奈良先生はお話の冒頭で、欧米色の強いメディアの影響で、日本の若者は近隣のアジア諸国よりもアメリカに詳しいことを指摘されました。『今までになく小さくなった世界で文化上、宗教上の衝突』が起きているこの時代にあって、インドと日本の文化、仏教とヒन्दゥー教の関係がより重視されていないことを嘆かれました。講演の内容はさらに『包括主義と排他主義』の矛盾点、靈的体験に言及する際に言葉が受ける制限、実在の実現、そして仏陀の教えにある慈悲の実践に及びました。

スワミーがまとめのキー・ポイントを要約された後、12時30分に昼食のブラサードとなりました。午後の部は3時に始まり、声明、輪読、質疑応答、瞑想と続けました。4時30分からのお茶の時間をはさんで、6時15分からはアラティ・バジャン(夕拝)、輪読、瞑想となりました。

*忘れられない物語

原因と結果

中国北境に住んでいたある男は、自分が世の出来事の解釈に優れていると信じていた。ある日どうした訳か彼の馬が国境を越えて遊牧民のところへ逃げ込んでしまった。皆が彼を慰めようとする、彼の父親が言った。「これが天の恵みでないと、どうしてお前たちに分かるのかね？」

何ヶ月か経つと、見事な遊牧民の種馬を連れた彼の馬が戻って来た。皆が彼に祝いの言葉をかけたが、父親は言った。「これが災いの元ではないと、どうして言えるのかね？」

馬のお陰で家計は潤い、息子は好んでその馬に乗った。しかしある日落馬して腰の骨を折ってしまった。皆が慰めようとする、父親は言った。「これが天の恵みでないと、どうして言えようか？」

翌年、遊牧民が大挙して国境を越えて攻めて来た。心身健全な男たちはみな弓を携えて戦場に行った。中国側の住民は10人に9人が命を失った。息子の不自由な足のお陰で父子は生き長らえて、互いに労り合った。

実に天の恵みは災いの元へと、そして災いの元は天の恵みへと様変わりするものだ。変わりゆくことに終わりはなく、また謎が読み解かれることもないのだ。

道教家

*大使館での講話

5月24日インド大使館で、パタンジャリの『ヨーガ・スートラ』に関する今月の講話がありました。プラーナヤーマを安全に実践する方法についての内容となりました。

*今月考えてみたいこと

親切

私たちがいつも見過ごしてしまうのは
そっと触れること、微笑みを交わすこと、優しい言葉、話に耳を傾けること、正直なほめ言葉、
あるいは小さないたわりのしぐさ
こうしたささいなことが人生をがらりと変えてくれるものなのだ

(レオ・ブスカリア)

*2度目のマニラ訪問(マニラ在住のエンリコ・コロombo氏からの報告)

2002年8月に次ぐ2度目のフィリピン訪問に出られたスワミー・メダサーナ
ンダは、5月9日(金曜日)夜9時半頃、マニラ空港に到着されました。前は当地
でビジネスを営むイタリア人兄弟の信者エンリコ、カルロ・コロomboの招待に応じら
れたものでした。このときスワミーは、「祭りに行くなら、そこでバナナのたたき
売りをしなさい」というベンガル地方のことわざを面白そうに引用されて、次の訪問
は活動の機会としたいとおっしゃいました。このことわざは、ただ遊びに行くのでは
なく、そこを仕事の場としなさいと教えるものです。

こうした理由で今回のスワミーの旅行は予定がぎっしりでした。土曜日にはセント・
トマス大学を訪問されました。400年に及ぶ植民地支配を続けたスペインが創設
したフィリピン最古の大学で、現在はカソリック教会が運営しています。南部地方に
は相当数のイスラム教徒もいますが、アジアでキリスト教徒が大多数を占めるのはフィ
リピンだけです。

この後、古いスペイン要塞イントラムロスの名のある地区のフィリピン・レストラン
で昼食をとりました。シェフは、メニューにないひと味違ったフィリピン流の野菜カ
レーを作るのに大奮闘。この機会にスワミーは、土地の料理へのチャレンジ精神を
大いに発揮されました。

短い休息の後、20人以上の出席者を前に『平和』について語られました。ほとんど
がフィリピン人で、例外として3人のイタリア人、そしてもうひとりとは著名なインド
女性、他ならぬインド大使がおりました。講話があったのは、スワミーが滞在され
ていた簡素なホテルの食堂でした。活発な質疑応答を含む約3時間のプログラムとな
りました。この地方の宗教伝統にはない瞑想の実践に真剣な興味を示す参加者も少な
くありませんでした。次回は瞑想ガイドを体験したいとの声も聞かれました。
プログラムはすべて英語で進行されました。フィリピンの公用語はタガログ語ですが、
英語は非常に人気のある第二言語で、コミュニケーションに役立っています。

この後近くの非常に質素なインド・レストランでの夕食となり、参加者のほとんどが
スワミーを囲んでテーブルに付きまわりました。スパイス使いには注意するよう頼んでお
いたのですが、インド人シェフの女性が張り切り過ぎたのでしょうか。インド料理は初
めてというフィリピン人の皆さんがびっくりする味付けの野菜料理もありました。
『忘れられない食事』となりました。

5月11日(日曜日)正午過ぎ、マニラ・ヒンドゥー寺院で今回の旅行2度目の講話
がありました。スワミーは『神の実現に向かう道としての信仰』について英語で話
され、約250名から300名が参加しました。インド人集会の日曜礼拝も含めて3
0分あまりのお話となりました。この後境内での昼食となり、スワミーは僧侶や職
員の方々に暖かく迎えられました。『バクラランの聖母マリア』は聖母マリアに奉納
された印象的な教会にあり、参詣者で込み合っていました。ここを訪れた後、人気の

マニラ・ベイにある食堂で夕食をとると、スワミーの短いマニラ滞在も終わりとなり、5月12日(月曜日)には朝の便で東京に向かわれました。講話へのフィリピン人出席者、マニラ・ヒンドゥー寺院の職員、そしてセント・トーマス大学でスワミーを歓迎して下さった親切な女性教授と、多くの方々が、再び近いスワミーの来訪を希望しています。意義深い旅行となりました。

ヴェーダーンタ協会の4月号にありましたように、マハーラージが近くの小学校を訪問されました。そこで信者の方がとられた写真から3枚を掲載します。

写真1:お手伝い下さった松田さんとお嬢さんのきらりさん

<http://www.vedanta.jp/multimedia/photo/school/Pages/8.html>

写真2:先生もインド気分で

<http://www.vedanta.jp/multimedia/photo/school/Pages/6.html>

写真3:熱心に聞き入る皆さん

<http://www.vedanta.jp/multimedia/photo/school/Pages/7.html>

発行: 日本ヴェーダーンタ協会

249-0001神奈川県逗子市久木4-18-1

Tel: 046-873-0428

Fax: 046-873-0592

<http://www.vedanta.jp>

info@vedanta.jp

[KENB003J]

このニュースレターがいない方は、このまま返信してください。

アドレスから削除いたします。
